

(仕様書第 3 号様式)

かながわコミュニティカレッジ運営業務実施報告書 令和 6 年 4 月～令和 7 年度 3 月分

(令和 7 年 3 月 29 日現在)

1 業務の名称

令和 6 年度かながわコミュニティカレッジ運営業務

2 実施した業務の内容等

(1) 講座開催計画等の策定

(2) 講座企画実施団体への支援業務

- 令和 6 年度講座企画提案団体に選定結果通知を送付した。(23 団体・29 講座)
- 令和 6 年度講座開催計画に沿って全 34 講座を開催した。
- 全ての講座企画実施団体又は講師と連絡を取り、実施時期や内容等の調整・確認を継続的に行った。
- 十分な広報期間を確保し、特定の時期に講座が重ならないよう年間計画を立て、予定通りに全講座を実施した。
- コミュニティカレッジでの講座実施経験が少ない団体には、講座カリキュラムや運営について個別に相談・助言を行った。

<オンライン講座の実施>

- 特別講座 1 本、主催講座 5 本、連携講座 1 本（ハイブリッド）の計 7 本でオンライン講座を実施した。

<バリアフリーの推進等>

- 聴覚障害のある方から受講申込みをいただき、必要な配慮を確認したうえで手話通訳者の手配を行った。また、オンライン講座では、手話通訳者の承諾を得て、講師と手話通訳者両方が映る講義動画を録画し、アーカイブ配信した。(2 講座)

【手話通訳が入った講座】

「NPO 会計講座（オンライン）」8/22～9/12 全 4 回

「傾聴講座 入門編②」9/3～10/15

- 聞こえにくい方、聴覚過敏の受講生に対しても、要望を伺い席について配慮した。(4 講座)
- 乳児同伴で受講希望の方に対して、講座実施団体と相談のうえ、了承いただけたのでご受講を可能とした。授乳室の確保。(2 講座)

(3) ボランティア活動未経験者層に向けた特別講座の開催

- ボランティア活動未経験者層を主な対象とする参加無料のオンラインセミナーを開催した。(参加者 53 名)。本セミナー参加後、講座に申込みされた方が複数名おり、参加者が次のステップにつながる提供ができた。

※実施概要、アンケート結果は別紙 1 参照

(4) 受講生募集のための広報

- 年間開催計画をもとに、広報用パンフレット『令和 6 年度年間講座スケジュール』を作成(13,000 部)、県内の公共施設等へ送付・配架依頼した(送付先 約 800 件)。
- パンフレットは表紙デザインを改訂、中面に修了生インタビュー記事の抜粋を掲載した。インタビュー記事の全文はホームページ上に掲載した。
- 主催講座、連携講座、特別講座の募集チラシをそれぞれ作成、県内の公共施設等へ送付・配架依頼した。

- 講座情報を次の媒体を通じて告知した。
 県のたより、かながわコミュニティカレッジのホームページ（県のホームページ及び当団体運営ホームページ）、講座修了生向けメール、基金事業課・NPO 協働推進課のメールマガジン、県の X（旧 Twitter）、Facebook、Peatix、県民センター 1 階デジタルサイネージ、市民活動支援施設・社会福祉協議会の WEB 広報
- 令和 6 年 11 月 16 日、17 日に県民センターで開催された、かながわ市民活動フェアで、年間パンフレットや受講生募集チラシを配架した。
- 「かながわ人生 100 歳時代ネットワーク」の定期意見交換会に参加し、年間講座スケジュール、募集チラシの配布や情報提供などを行った。
- 「令和 6 年度かながわコミュニティカレッジ活動報告」を作成し、かながわ県民センター 1 階のラックに配架や、受講生交流サロンで参加者に配布した。
 ※令和 6 年度かながわコミュニティカレッジ活動報告は別添
- 当団体運営のコミュニティカレッジホームページで、令和 6 年度の講座報告として、講座の写真と紹介文を掲載した。

（5）修了生の地域・社会活動への参加促進や活動支援など

<受講生交流サロンの実施>

- 令和 6 年度かながわコミュニティカレッジ主催講座の修了生・受講生を対象に受講生交流サロンを開催した。受講生が互いの近況や活動状況を情報交換し交流することで、活動の活性化や今後の活動に向けたモチベーションの継続につなげることを目的とした。

日 程 令和 7 年 3 月 15 日（土）13：30～15：30

会 場 かながわコミュニティカレッジ講義室 2

参加者 31 名

受講対象者 令和 6 年度主催講座受講生 643 名（延べ 797 名）
 （チラシを郵送または配布等で案内）

参加費 無料

内 容 アイスブレイク（回想法を活用して）

地域活動事例の紹介

NPO 法人宮ノマエストロ 代表理事 高橋裕子氏

（平成 27 年度コミカレ受講生）

グループトーク、交流

※アンケートは別紙 2 参照

<修了生アンケートの実施>

期 間 令和 6 年 5 月 30 日～8 月 18 日

対 象 令和 5 年度に開講した主催講座の修了生

修了生総数 497 人（延べ修了者数 592 人）

回答数 152 人（延べ回答数 192 名）

回答率 30.6%（延べ回答率 32.4%）

○受講後の変化について

◆受講後に何らかの地域活動を「行っている」との回答が 67.1%（102 人）。うち 68.6%（70 人）が「ボランティア団体の活動や NPO 活動への参加」を選択

◆「講座受講をきっかけに活動を始めた人」は 24.5%（25 人）。

○地域活動を行っていない理由

◆「地域活動を行っていない」と回答した人（49 人）が現在活動を出来ない理由として「多忙である」「自分に合った活動内容、活動先が見当たらない」の回答が多かった。

○講座の有用度

◆修了した講座が、その後の地域活動や生活に「大変役立った」「少し役立った」の回答が 79.7% (153 人)。

◆「役立たなかった」と回答した人の理由として「講義の内容を活かす機会がない」「講義の内容が事前に期待していたものと違った」との回答が比較的多数あった。

<修了生インタビューの実施>

○令和 6 年度に下記講座を修了された 2 名の方に、講座の修了後の活動状況についてインタビューを行った。インタビュー記事は、かながわコミュニティカレッジのホームページに掲載されている。

「発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座（実践編）」

「新聞記者に学ぶ文章・写真・編集パワーアップ講座（NPO 活動・地域活動向け）」

<修了生近況報告の収集>

○修了生アンケート調査時に「近況報告シート」を同封し、75 名の修了生から活動状況や近況報告を返送があった。「近況報告シート」は、11 階講義室の外壁に設置したコミュニケーションボードに掲示した。前年度受講生の近況や活動などの報告は、これから受講するにあたっての具体的なイメージとなり、多くの方が足を止めて読んでいた。

<受講生フォローアップのサポート及び受講生への情報提供>

○仲間作りや実施団体とのつながりを深め、次の活動につなげるためのバックアップを目的に、講座実施団体等が実施するフォローアップ企画を支援した。また、活動につながる情報を受講生に提供した。

（フォローアップ企画の実施状況）

【主催講座】

「聞き書きボランティア養成講座」

「大人のひきこもりと発達障がいを考える講座」

「防災教育ファシリテーター養成講座（初級編）」

「シニアライフアドバイザー養成講座」

「地域活動リーダー養成講座」

【連携講座】

「防災教育ファシリテーター養成講座（上級編）」

「子どもシェルターのボランティア養成講座」

「歌うチャージング体操リーダー養成講座」

「野生動物リハビリテーター養成講座（講義編）」

※上記以外にも、講座実施団体が独自にフォローアップを実施している講座がある。

<講座受講生の自主グループの立ち上げと活動支援>

令和 6 年度に開催された講座の中で、自主グループの立ち上げや、既存の自主グループに新たな受講生が参加するなど、受講後も継続的に集まり、講座テーマをさらに深め、次へのステップアップとしてつながりながら第一歩を踏み出しています。

- ◆チーム哲（地域のつながり始めるあなたのウェルビーイング）
- ◆かながわりんく（地域のつながりで始めるあなたのウェルビーイング）
- ◆防災教育ファシリテーター（防災教育ファシリテーター養成講座）
- ◆ふわふわの会交流会（大人のひきこもりと発達障がいを考える講座）
- ◆コミカレひろば（発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座）
- ◆聞き書き樹交流会（聞き書きボランティア養成講座）
- ◆回想法実践トレーニングの会（回想法リーダー養成講座）

＜修了生及び登録者への定期的なメール配信＞

過去の受講生（メール配信希望者）と、県のホームページ経由で申込のあったメール配信登録者に宛て、講座情報やボランティア活動相談窓口の案内を掲載したメールを配信した。（配信件数：4,046件 ※不達除く 令和6年12月21日時点）

＜県内市町村・公施設等との情報連携＞

県内の市民活動支援施設、社会福祉協議会等が定期的に発行している情報紙を、2つの講義室内に設置しているラックにそれぞれ配架して、受講生の活動に役立つ情報提供を行った。

＜「ボランティア活動相談窓口」との連携、ボランティアサロンの周知、見学ツアー＞

講座受講後の希望者を対象に、県民活動サポートセンター9階、10階のボランティアサロン及びボランティア活動相談窓口の周知及び現場案内を試験的に実施した。スタッフが案内役となり、ボランティアサロンの利用目的や使い方、ボランティア活動相談窓口の様子、その他コピー機、図書などの説明を行った。毎回10名前後の希望者があり、今後の利用が見込まれる。

（6）スタッフ研修、OJTなど

- ◆事務局スタッフ個人情報保護研修 令和6年5月31日（金）
- ◆かながわ県民センター防災訓練・防災研修
 - 令和6年10月23日（水）
 - 令和7年1月15日（水）
 - 令和7年2月19日（水）
- ◆「横浜アクションアワード2025」見学
 - 令和7年2月22日（土）
- ◆「クリエイティブ思考×社会課題」セミナー参加
 - 令和7年2月27日（木）
- ◆「パブリックリレーションズ・サポート・プログラム成果報告会」見学
 - 令和7年2月28日（金）
- ◆ボランティア活動実践交流集会「つながることで、次へつながる」参加
 - 主催：神奈川県社会福祉協議会
 - 令和7年3月26日（水）

3 その他報告事項、所見など

（1）令和6年2月26日開催の「かながわコミュニティカレッジ運営業務委託団体選考第2次審査」で、委員からの意見を受けて実施した事項

- 「シニアライフアドバイザー養成講座」を県のホームページ上に、今年度初めて開講するトピック講座として告知した。
- 社会情勢やニーズの変化などに対応した新たな視点を取り入れられるよう、講座実施団体や講師と相談してカリキュラムを調整した。次の講座では、能登半島地震を契機とする防災・減災意識の高まりに応えられる内容を加えた。
 - ◆「災害ボランティア入門講座（オンライン）」
 - 能登半島地震における災害ボランティアの経験談や、能登半島地震災害支援ボランティアバスに関する情報提供をした。
 - ◆「共助の地域づくりを推進する講座」
 - 災害時に浮彫となる地域のつながりを見つめなおし、日頃から防災・減災を意識して共生・共助の地域づくりを進めるため、適切な講師を人選していただいた。
- 次の防災講座は、湘南・県西地域の方の参加を促進するため、中間支援組織である「ひらつ

か市民活動センター」にご協力いただき、平塚市内で講座を開講する。

◆「防災教育ファシリテーター養成講座（初級編）」

防災に関する知識を子どもたちに伝える防災教育ファシリテーターとして必要な防災知識を実践的に学ぶ講座。特に沿岸部の避難行動を考えるワークショップ（逃げ地図）は、地域の特性や地形を知る重要な学びとなる。

○セキュリティガイドラインの講座実施団体への提示

個人情報の漏洩防止対策については、仕様書「12 各業務に共通する業務実施上の留意事項（5）個人情報等取扱体制に明確化」に従って、具体的な対策を県に提出しているが、主催講座・連携講座の講座実施団体にはかながわコミュニティカレッジの個人情報に関わるガイドラインとして示すこととした。

主な内容 ◆個人情報の取得時、転記時、受講決定通知等の封入、送付時の確認事項

◆FAX送信時、電子メールの送信時の確認事項

◆保管・廃棄の際の確認事項

◆再委託、講座企画実施団体に対する注意喚起 など

○「神奈川県社会福祉協議会（かながわ県民センター11階 ボランティアセンター）」で、チラシ配架等のご協力をいただいた。また、コミュニティカレッジ講義室や廊下壁に、神奈川県社会福祉協議会様よりいただいた情報を配架、掲示し連携を図った。

○障がいのある方に安心して受講申し込ただけできるよう、「かながわコミュニティカレッジ講座におけるバリアフリーの推進」について、講座募集チラシ及び神奈川県のコミュニティカレッジホームページに明記した。

「かながわコミュニティカレッジ講座におけるバリアフリーの推進」

かながわコミュニティカレッジ講座では、障がいのある方でも安心して受講いただけるよう、配慮を行います。

詳細については、講座を申し込まれる前にかながわコミュニティカレッジ事務局までお問い合わせください。

【聴覚障がいのある方】手話通訳や要約筆記者の依頼

【視覚障がいのある方】盲導犬を連れての受講に配慮

【弱視の方】配布資料をA3に拡大し、一番前の席を確保

【車いすをご利用の方】講義室内の動線確保、多目的トイレのご案内 など

(2) その他

○横須賀市では、令和5年度より「市民公益活動人材育成研修受講奨励金」として、かながわコミュニティカレッジを受講する横須賀市民に奨励金が助成される制度が始まった。制度に関する案内をチラシに記載し、受講決定通知を送付する際に、横須賀市民の受講生に奨励金の案内を同封した。

○令和6年度より受講料の納付方法が、電子納付と納付書納付の2種類から選択可能となった。手続きや発送に関する手順が増えたが、大きな混乱はなく実施することができた

以上

実施概要「人生を豊かに過ごすための地域での支え合い・助け合い（オンラインセミナー）」

日 時：令和 6 年度 6 月 15 日（土）13:30～15:15

会 場：Zoom によるオンライン開催（希望者は講義室での視聴も可）

内 容：第 1 部 特別講演 『見つけてみませんか？知り合い以上、友人未満の「ゆるやか」な人間関係のうまれる場 ～今からできるあなたの「種まき」』

講師：澤岡 詩野 氏

（東海大学健康学部健康マネジメント学科 准教授）

コミカレ講座体験談（令和 5 年度受講生 2 名）

第 2 部 令和 6 年度 かながわコミュニティカレッジ講座の紹介（コミカレ事務局）

受講料：無料

参加者：53 名（申込み 60 名） 講義室での聴講希望者は無し

以下、参加者アンケート結果（回答 40 人）

【参加者属性】

- ・回答者は男性 16 人（40.0%）、女性 24 人（60.0%）。年齢層は 60 代が最も多く 16 人（40.0%）、次いで 50 代 12 人（30.0%）、40 代と 70 代が 4 人（10.0%）、30 代 3 人（7.5%）からの回答があった。
- ・回答者の 29 人（72.5%）がコミュニティカレッジの受講がない方であった。
- ・ボランティア活動の経験がある人は 33 人（82.5%）、経験がない人は 7 人 17.5%であった。
- ・セミナーを受けて地域活動に「参加したいと思った」は 20 人（50.0%）、「既に参加している」が 14 人（35.0%）であった。

【参加者の感想（抜粋）】

- ・全般的に学べる講座が多くあることを再認識させていただきました。
- ・澤岡先生のお話で、活動メンバーの増やし方のヒントをいただきました。昨年参加のお 2 人には、具体的な内容をお聞きできて大変参考になりました。受講に興味を持ちました。
- ・修了生のお二人のお話は臨場感があって大変良かったです。
- ・人生 100 年時代と言われる中、子育ても落ち着きこれから地域に貢献して新たな生きがいを探したいと思い受講しました。ボランティアに参加したいのだけれどどこから始めれば良いかわからなかったもので、良いきっかけになったと思います。
- ・知的好奇心が刺激されました。コミカレという存在を知る機会になってよかったです。
- ・講座は具体的で分かり易かったと思います。受講体験を語ったお二人の話も良くまとまっており参考になりました。
- ・人生を豊かに過ごすため、コミカレの可能性を感じました。
- ・「今とは違うボランティア活動がしたい、でも…」と迷いを抱えしり込みをしている自分の背中をそっと押してくれるような、素敵な講座でした。受講できて本当に良かったです。
- ・今自分が置かれている場所で日常的に出会う人だけではなく、様々なバックグラウンドを持つ方達と出会い、色々な考え方や課題を聞く機会を求めて、何かの講座を受講してみたいと思いました。
- ・高齢になり年を重ねるごとに仕事や家族とのかかわりが薄れ、気が付いた時には家に引きこもり、外とのつながりがなくなっているようなそんな 10 年後、20 年後を描いていましたが、澤岡先生に講演を聴き、日常生活での楽しみとは、共感するとは、居心地がいいとは、など、自身に問いかけるきっかけを教えてくださいました。

令和 6 年度かながわコミュニティカレッジ 受講生交流サロン アンケート (抜粋)

質問 受講生交流サロンへの参加動機は？

- ・プログラム内容に興味があったから (回想法、サロン運営)。宮前テラスの活動を参考にしたいから。
- ・具体的に活動されている方がいらっしゃれば、実情をおききしたいと思っています。
- ・栄区でのコミュニティカフェ立ち上げの構想を練るため。
- ・居場所作りを知りたいと思いました。
- ・自分が受講していない、新たな出会いがあれば…。
- ・いろいろな方のお話を聞きたかった為。
- ・様々な講座を受講した方とお会いして情報を得たり、交流ができたらと思ひまして参加致しました。
- ・地域の人が気軽に立ち寄れる、交流の場があると良いと思っていたので。
- ・ボランティア意識のある方と、もう一度会いたいと思ったので…。
- ・他の人がどんな活動をしているか、興味があったから。
- ・人のつながりを、より深めるため。
- ・自分が参加していない講座の方とも話ができる。

質問 かながわコミュニティカレッジ講座を受講され、何かご自身に変化はありましたか？

- ・地域の人と人々との交流。
- ・NPO 立ち上げたいと思っているのでその基本枠がスタートできたと思っています。
- ・「仲間作り」の場として、他にはない素晴らしい場所と思います。
- ・違った背景を持つ方々に出会えたこと。知識が増えた。
- ・もっと学習したくなった。
- ・知らなかったことがたくさんあり、全てが学びになりました。
- ・活動されている方々の貴重なお話を聞いて、刺激になりました。
- ・認知症の母と暮らしているが、接し方を変えることにより母の口から何年かぶりに「ありがとう」「手伝う」という言葉がでるようになった。受講して良かった！
- ・つながり、絆を求めて活動したい人は、予想以上に多かったこと。変化、コミュニケーション基本意識・復習として啓発された。
- ・今まで知らなかったことを学べて、いろいろとチャレンジしてみたい気持ちになりました。
- ・人とつながること、大切だと思いました。

質問 受講生交流サロンに参加しての感想等

- ・目的に対し、それを実現させるために NPO を立ち上げ、きめ細かい支援を行いたいとする人達が少なからずいらっしゃることを心強く思っています。
- ・上手に進行役の方が進めて下さり、お一人おひとりの学んだことから、色々活動なさっている様子を聞いて、参考になりました。
- ・すでに地域で活動されていることを伺い、元気をもらいました。“もう 1 年だから”と思っていた自分が変わっていくようでした。高森様の、次々にご自分の可能性にチャレンジされている体験に触れ、素晴らしい！日本の未来は明るい！と感動しました。ありがとうございました。
- ・紹介事例がとても素晴らしく、多くの方々の協力で地域での大きな出会いの場、活動の場となっていることに感銘を受けた。参加できてとても良かった。回想法も、とてもヒントになりました。
- ・令和 6 年度、1 年間お世話になりました。今年度出会った仲間と持続可能な活動をしていきたいと思ひます。
- ・意外と同じ思いをかかえている方が多かったので、うまくつながれればと思った。
- ・とても興味がありましたので、参考にさせていただくことばかりでした。ありがとうございました。